

# じねん 自然に学ぶ (8)

自然道宗家  
三戸唯裕

## 驚く人間の直観力

晩秋の夕焼けは来る冬を想わせる寂寥感を漂わせてその美しさに見とれます。

私の知人に夕暮れの空を眺めて明日の天気を見事に言い当てた老人がいました。

ヘミングウェイの「老人と海」の漁師を彷彿させる潮風が匂うような漁師でしたが、テレビの天気予報がいくら「晴れ」だと報じても、その老人が「雨だ」と言えば不思議に雨なのです。これは、生命をかけて海を生活の場として生きてきた漁師の見事な「直観力」なのでしょう。

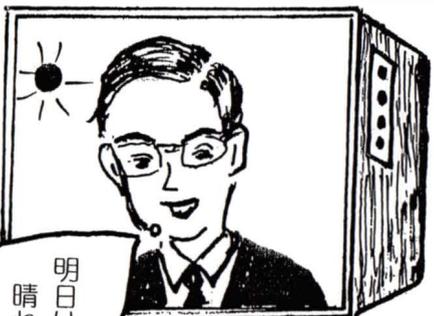
私達の祖先はこのように自然を素直に観察して色々な自然現象の中に現れ、繰り返される共通なことを鋭い「直観力」で見つけその法則を生活の知恵として使っていました。

科学のない昔から、現代科学に優る人間の「直観力」で正確に見つけていたのです。

皆さまもこのようなお年寄りの不思議な「直観力」に驚いたり感心したご経験を一つや二つはお持ちだと思います。

漢方の古里、中国の古人も数ある野草の中から薬草と毒草を見わける「直観力」をちゃんと持っていました。犬や猫でも身に危険な食べ物は匂いを嗅いだだけで通りすぎてしまいます。

このような動物に与えられた天与の「直観力」を現代人は失ってしまいました。そしてなにごとにも科学という計測され



明日は  
晴れで  
しょう。



ンニヤ  
雨だよー。

たものしか信じないで、古人が「直観力」で発見した自然の法則を、迷信とかあやふやだという考えで退けてしまう風潮になってしまったのです。

でもこれは間違った考えです。いくら科学、科学といっても科学の基は人間の経験ですし、地

球発生以来厳としてある自然の法則を科学はその何万分の一も解明してはいないのです。その解明されていない自然の法則を古人が長い年月の経験から発見したものを迷信とか、あやふやだとしてかたづけられることは決して正しくはないのです。

或る有名な気象学者は、天気予報の時に「観天望気」という前記の漁師のような深い数多くの経験を非常に重視しております。

又、有名な建築学者は「現代人は驕ることなく、古人の知恵に学ばなければいけない」と次のように指摘しておられました。

「現代地質学とか、建築学が非常に発達したと思っても、毎年暴風雨のたびに近代建築が流されたり陥没したりしているのに比べ昔からの本家筋と言われる家の建物は同じような暴風雨にあっても、流されたり、陥没したり被害は受けていない」と。

このような事実からみても古人がいかに自然を深く観察し生活の知恵として使っていたかが解ります。

私達は、もつともつと昔の人の経験の確かさを見直さなければいけないでしょう。

そして素直に自然を観察し、「直観力」を養っていくことをしなければいけないと思います。